

第13弾

真室川スタディツアー

釜淵地区の文化と伝説への誘い編

まなびのしおり

令和7年6月28日(土)

みんなで育む 学びのまち 真室川

～ふるさとを愛し 高い志をもって 未来をひらく 人づくり～

第 13 回真室川スタディツアー

釜淵地区の文化と伝説への誘い ～キリシタン文化に触れながら～

開 講 式 次 第

会 場：真室川町役場正面玄関前

時 間：7：45～

1. 開 会
2. 主催者あいさつ（教育長）
3. オリエンテーション
 - (1) 事業の概要・タイムテーブル
 - (2) 事務連絡
4. 閉 会

閉 講 式 次 第

会 場：真室川町役場正面玄関前

時 間：11:50～

1. 開 会
2. 修了証贈呈（代表 1 名）
3. 感想発表
4. 主催者あいさつ（教育長）
5. 閉 会

タイムテーブル(予定)

7:30～ 7:45	受付
7:45～ 7:55	開講式
7:55～ 8:20	(移動)
8:30～ 9:30	谷口銀山跡見学（60 分）【谷口銀山跡】
9:40～ 9:50	(移動)
10:00～10:20	町指定文化財キリシタン制札見学（20 分） 【春木地区公民館】
10:30～10:35	(移動)
	釜淵番楽見学（15 分）【釜淵地区友愛公園】
10:35～11:25	お化け石・釜淵山神社見学（25 分） コーヒーブレイク【釜淵地区友愛公園】
11:30～11:45	(移動)
11:50～12:00	役場到着・閉講式・解散



【スタディツアーについて】

真室川町のスタディツアーにご参加いただき、誠にありがとうございます。

真室川町にはたくさんの宝物がありますが、地域の方々からは「真室川町には何もない」との声がしばしば聞かれます。子ども達は学校での「ふるさと学習」により、地域の宝物を多く学んでいます。しかし、その親・祖父母世代である大人は、真室川の本当の宝物や魅力を知らないままに生活している方が、案外いらっしゃるのではないのでしょうか。そのようなことから、今回、改めて地域の宝を再発見する社会科見学を企画しました。子ども達と一緒に大人も町の良さを見つめなおすことで、「真室川町にはいいところがたくさんある」と自信を持って言える方が増えることを期待しています。

【真室川町の概要】

(令和7年5月末現在)

○人口: **6,380人** ○世帯数: **2,506世帯**

町のシンボル

◎町の木 「梅の木」



◎町の鳥 「ウグイス」



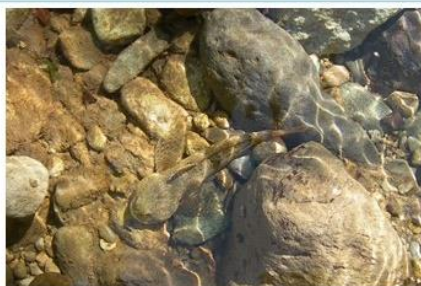
◎町の音頭 「真室川音頭」



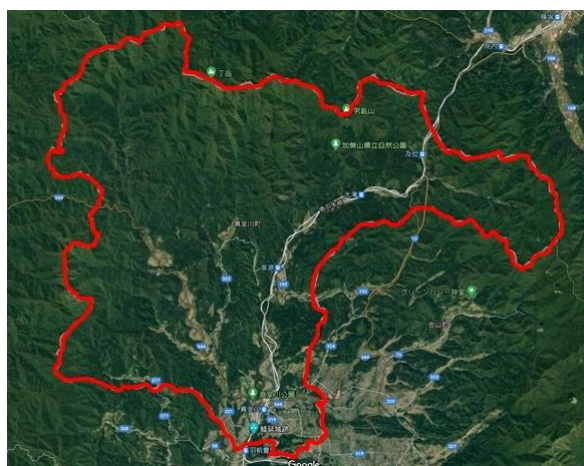
◎町の花 「梅」



◎町の魚 「ハナカジカ」



◎町の昆虫 「ハッチョウトンボ」



地目	面積(km ²)	割合(%)
山林	295.05	78.8
田	20.61	5.5
畑	3.17	0.8
宅地	2.44	0.7
原野	9.22	2.5
その他	43.73	11.7
合計	374.22	100

(H31.1.1 時点)

真室川町は、山形県の内陸最北部に位置し、北側は秋田県に接している。

町の約 79%が山林の中山間地域であるため、古くから林業・農業が盛んである。

また、各地区には伝統文化が数多く継承されており、番楽・囃子・わらべ唄のほか、伝承野菜等も引き継がれている。

< 谷口銀山 >



谷口銀山は源義経ゆかりの人物である「金売吉次」が平治元年(1159 年)に発見したと伝えられている。金売吉次は平安時代末に活躍したとされる金商人である。

谷口銀山は最上義光がこの地を支配した 16 世紀末には採掘され、新庄藩の初代藩主「戸沢政盛」が入部してから本格的に開発されたと言われている。谷口銀山の最盛期は寛永元年(1624 年)から慶安 4 年(1651 年)にかけてと考えられている。

最盛期の頃は“鋪”(しき、坑内・坑道のこと)の数が 66 箇所、金堀居小屋(鉱山労働者の屋敷)が 3000 軒、傾城町(けいせいまち、遊郭のこと)が 70 軒、お寺が 9 か所、てこ屋(精錬所)が 56 軒あったなど、花の都のように賑わっていたとされている。

谷口銀山で採れた銀を牛 1 頭に 32 貫(1 貫=3.75 kg、32 貫=120 kg)ずつ、7 頭の牛につけ、7 か月間 1 日も休むことなく城下に運んだ期間が 70 年間続いたと言われ、新庄藩の財政を大いに潤したとされている。

災害等により各坑道が浸水し、一時期は衰えたが元禄・宝永・元文の時代に 2 度にわたって繁栄し、その後再び衰退した。弘化 2 年(1845 年)に江戸深川の小田原屋平次郎が再興を試みて採掘を開始したが、2 年後には採掘が中止され、ほぼ廃山状態となった。

昭和 59 年(1984 年)に地元の有志により「谷口銀山史跡保存会」が結成され、坑道整備や水抜き、清掃、安全管理が行われ、現在に至る。通常は安全管理のため入口が施錠されているが、保存会による案内で舗の内部を見学することができる。

「未来に伝える山形の宝ポータルサイト」「山形県公式観光サイト」「日本全国鉱山めぐり決定版」参照



＜谷口銀山跡入口＞

金山町谷口地区公民館付近に位置する



＜谷口銀山図＞

平成 11 年に金山町指定史跡に指定された



大切鋪(おおぎりしき)

谷口銀山最大級の水抜き鋪(坑内で湧き出る水を抜く鋪)である。銀山跡図では「未甲割」と表示されている。谷口銀山初期に掘られたと推察されている。

現在は土砂が堆積し、30m程度しか侵入することができないが、当時は吉次山に向かって一直線上につながっており、坑道から地上に向かって1番から6番まで煙鋪(鉍石から発生する有害ガスを排出し、坑内の酸素濃度を適切に保つための立抗)があったと言われている。



大切鋪の坑道内。写真左のように土砂が堆積している。
水で削られた跡が白い苔の状態から確認できる。



新大切舗(しんおおぎりしき)

谷口銀山最後の水抜き舗。「伝助舗」と「勝り舗」と呼ばれる優良抗(鉱石の品位が高く、産出量が多い坑道)の水抜きが困難になったために、江戸深川の「小田原屋平次郎」が弘化2年(1845年)から採掘した舗である。2年間採掘が進められたが、90mを残した状態で中止された。採掘を半端にしてしまったことから“はんば舗”とも呼ばれている。この採掘中止によって谷口銀山は閉鎖された。最後まで採掘が進められていれば、あと20〜30年は採掘が続いていたのではないかとされている。

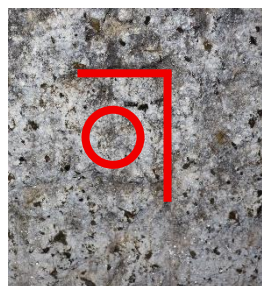
坑道の復旧作業が行われ、谷口銀山にある坑道の中で唯一、現在も通り抜けることができる。

今回のツアーでは新大切舗の途中までを見学する。



＜地上の出口まで続く82の階段＞
かなり狭く、急勾配な階段を上って地上に出る

新大切舗の坑道内の壁には下の写真のような記号が掘られているが何を意味するかは解明されていない。



採掘が中止された坑道跡



新大切舗の入口から173m地点には「山神社」の文字が掘られており、その向かいには石が積み重ねられている。隠れキリシタンが何かを隠したのではないかとという説もあるが真相は不明である。

○鉾山と隠れキリシタンの関係

キリスト教は天文 18 年(1549 年)に「フランシスコ・ザビエル」の来日により、日本に伝えられ、その後が続いて来日した宣教師たちの活動や南蛮貿易の利益を求めて改宗したキリシタン大名の保護によって日本全国に広まっていった。

しかし、豊臣秀吉のバテレン追放令、江戸幕府の禁教令により、キリスト教への弾圧が強まった。そして禁教が深まる中で起こった「島原・天草一揆」を脅威とみなした幕府は「鎖国」を確立した。このキリスト教が禁止された時代に、ひそかに信仰を続けた人々のことを「隠れキリシタン(潜伏キリシタン)」という。

藩政時代(江戸幕府の統治下で各藩が自領を統治していた時代)の鉾山には、鉾山ごとに決められた独自の法律(山法)があった。当時の鉾山は一般の法律に対し、治外法権におかれた特殊な社会で、山法は鉾山での生活や労働者に適用される処罰規定であった。この山法を守る限り安全である鉾山労働者という職は、隠れキリシタンにとって身を隠すのに適していると言える。

実際に世界文化遺産に指定されている新潟県佐渡市の「佐渡金山」や岩手県柴波町の「朴木金山」、秋田県鹿角市の「尾去沢鉾山」をはじめとした鉾山に隠れキリシタンがいたとされる記録が残っている。中でも尾去沢鉾山では寛文 6 年(1666 年)に多くのキリスト教徒が捕らえられ、処刑される事件が起こっており、現在の坑道の見学コースの中には隠れキリシタンが祈りを捧げる様子を再現した展示がある。

寛永 14 年(1637 年)、新庄領小国郷(現在の最上町)で宗門改め(キリシタンでないことを確認する制度・踏み絵などが行われた)を行ったところ、キリシタンの百姓が逃亡し、新庄藩士に処刑された記録や、正保 2 年(1645 年)には新庄藩士の「綱木佐源太」という人物がキリシタンであることが発覚し、江戸に入牢された記録が残っていることから最上地域においてもキリシタンが身を隠していたことがわかる。(「御四代之御記録」・「新庄古老覚書」より)

谷口鉾山においても確かな文献は残っていないが鉾山師である「萱務掃部(カヤマクリカモン)」は隠れキリシタンだったのではないかという説もある。萱務掃部は越後出身の「碓屋与次兵衛」という人物であると戸沢村史に記されている。



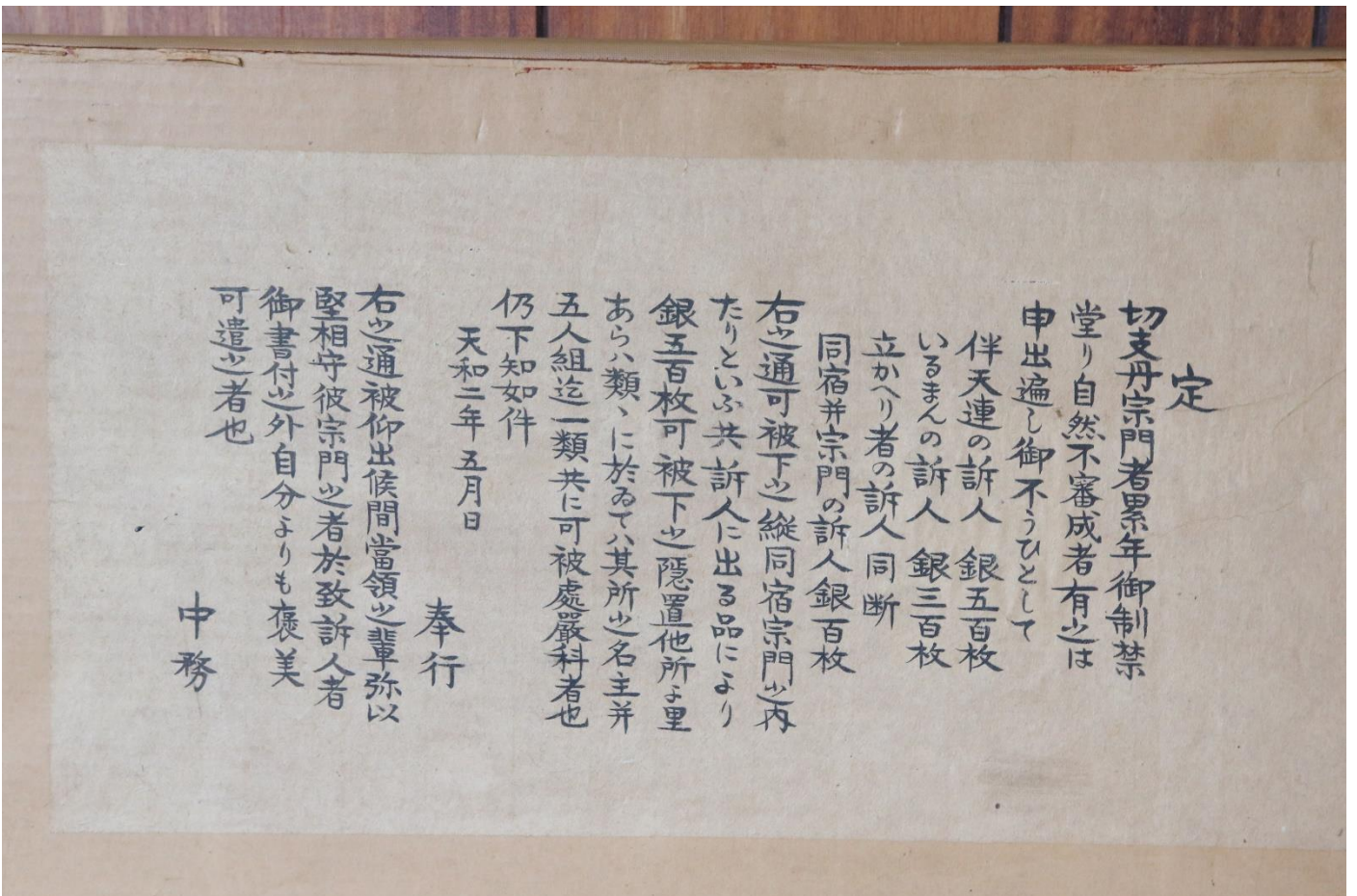
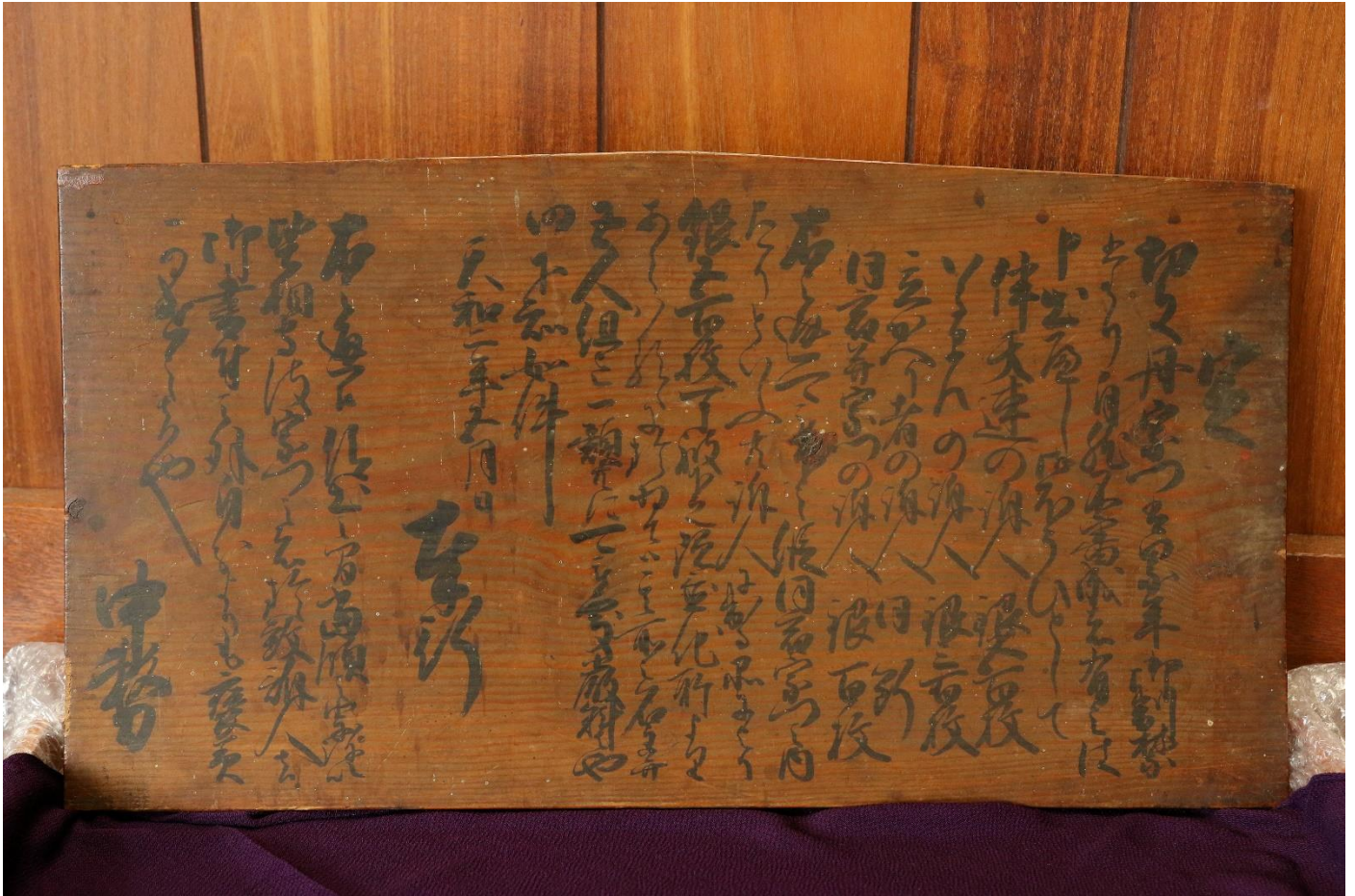
享保十八年(一七三三年)
銀界栄白信士
谷口山中衆霊
七月七日改建

谷口鉾山で犠牲になった人々の慰霊碑と推測されている高さ 120 cm・幅 70 cm の自然石でできた立派な墓石がある。墓石には「銀界栄白信士」と刻まれているが、これは萱務掃部の法名(浄土真宗における出家時に名乗る名前)であると戸沢村史に記されている。

＜谷口鉾山の慰霊碑＞

看板がある場所から確認することができる。

< キリシタン制札 (町指定文化財) > 昭和 62 年 7 月 14 日指定



定

切支丹宗門者累年御制禁
堂り自然不審成者有之は
申出遍し御不うひとして

伴天連の訴人 銀五百枚
いるまんの訴人 銀三百枚
立かへり者の訴人 同断

同宿并宗門の訴人 銀百枚

右之通可被下之縦同宿宗門之再
たりといふ共訴人に出る品により
銀五百枚可被下之隱置他所より
あらハ類、に於てハ其所之名主并
五人組迄一類共に可被處嚴科者也
仍下知如件

天和二年五月日

奉行

右之通被仰出候間當領之輩弥以
堅相守彼宗門之者於致訴人者
御書付之外自分よりも褒美
可遣之者也

中務

定

切支丹宗門者累年御制禁
堂り自然不審成者有之は
申し出遍し御不うひとして
伴天連の訴人 銀五百枚
いるまんの訴人 銀三百枚
立かへり者の訴人 同断
同宿并宗門の訴人 銀百枚
右の通可被下従同宿宗門之内
たりといふ共訴人に出る品により
銀五百枚可被下隠置他所より
あら八類々に於其所之名主并
五人組迄一類共に可被処嚴科者也
以下知如件
天和二年五月 日 奉行
右之通被仰出候間当領之輩弥似
堅相守彼宗門之者於訴人者
御書付之外自分よりも褒美
可遺之者也

中務

新庄藩独自の内容

全国的に発令された内容

< 語句説明 >

伴天連(バテレン)…宣教師

いるまん(伊留末無)…宣教師に次ぐ位の修道士

立ちかへり者…迫害等により棄教したが、再度布教活動をしているキリシタン

同宿并宗門…キリシタンをかくまっている者・寝食をともにしている協力者

一類共に…罰則が名主や一族までに及ぶ相互監視のこと

奉行…宗門改役(役職の1つ)のことで、宗派に対する警察・司法の権限を持つ

○キリシタン制札について

江戸幕府は寛永14年(1637年)の「島原・天草一揆」を契機に、より一層キリシタンへの取り締まりを強めた。さらに、キリシタン摘発のため、全国各地の村々の高札場(江戸時代に幕府等が発布した掟書を一般人に知らせるために掲示した場所・現代でいう掲示板)に制札を掲げた。

春木地区に残るものは、幕府が出したキリシタン禁令を受け、天和2年(1682年)に新庄藩が領内に触れ出した制札である。

この札をはじめ、全国的に掲げられた制札には宣教師やキリスト教信者、立ち返り者などを訴え出た者に対して高額の賞金を与え、この札の内容に従わず、隠し立てることがあれば名主(村の代表者・庄屋とも呼ぶ)をはじめ、五人組(近隣の5戸を1組として年貢の納入・キリスト教の監視などに連帯責任を負わせる制度)まで罰することが記載されている。

なお、新庄藩が出した制札には、さらに上積みにして賞金を与えている。

賞金である銀500枚を現在の価値に換算すると…**約45,150,000円**

江戸時代(18世紀)のお米の値段 米1石(約150kg)=金1両とする

現在の米5kgの値段=4,200円とする(農水省発表の6月1週目の平均価格4,176円を参考)

現在の米1kgあたりの値段は840円→金1両の値段は840円×150kg=126,000円

銀1枚=銀43匁(もんめ) 金1両=銀60匁 銀500枚(21,500匁)はおおよそ358両となる

金1両126,000円×358両=45,150,000円

※江戸時代の金・銀は時代によって価値が変動するため、必ずしも正確な金額とは限らない

< 釜淵番楽 >



↑ 釜楽フェスティバル(ふるさと伝承館)での獅子舞



↑ 釜淵山神社での獅子舞

釜淵番楽は江戸時代中期に秋田県矢島地方から伝えられたとされ、定かではないが当時は30近い演目があったと言われている。

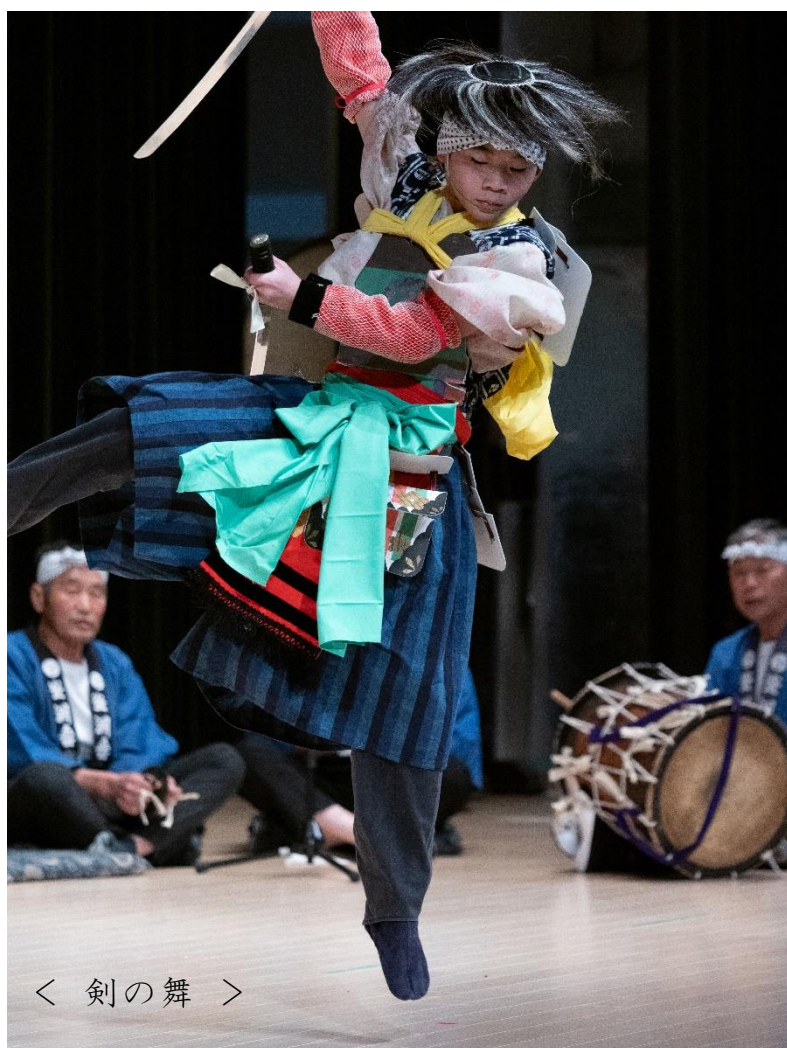
番楽の中でも珍しい3拍子の番楽であり、その昔、新庄藩主戸沢公が釜淵番楽を照覧された際に、その舞のすばらしさを褒めたたえ、「鶴」「亀」「松」「竹」の幕を下ろされたと言われている。



< 三番叟 >



< 三人太刀 >



< 剣の舞 >

毎年9月13日に行われる山神社のお祭りにおいては、虚空蔵神社(こくうぞうじんじゃ)と風呂輪権現(ほろはごんげん)にて、釜淵番楽の中でも代表的な演目である「獅子舞」を奉納したのち、地区内の家々にて門獅子(がどじし)と呼ばれる邪気払いを行っている。

昭和57年(1982年)には釜淵番楽保存会を設立し、釜淵一区が中心となり、地域と連携した活動を行っているほか、平成16年度からは地域の公民館を活用し、番楽と食文化を融合させた「釜淵行灯番楽交流会」を実施し、冬のイベントとして定着させるなど、伝承芸能の保存活動にも尽力している。

「剣の舞」は釜淵地区に伝わる
“お化け石の伝説”にも登場する
演目である

< お化け石 >



○釜淵地区に伝わるお化け石の伝説(お化け石隣接の看板より)

江戸の頃、日本は鎖国のため、キリスト教が禁止されていました。東北地方においてもおよそ 900 人の信者がいたとされています。

寛永 2 年(1625 年)、幕府の厳しい弾圧から逃れ釜淵から数キロ奥まった金山の谷口銀山に飯盛りとして働く「うしの」という美しい女キリシタンがいました。ある日、「うしの」は取り調べの恐ろしさや厳しい銀山の仕事から抜け出しました。しかし、新庄藩の役人に捕まり、殺されてしまいました。偶然通りかかった炭焼き男「門兵衛」は「うしの」の死体を見ると胸に十字架が下げられているのを見つけました。発見を恐れた「門兵衛」は十字架を持ち帰り、虚空蔵(こくうぞう)様の坂下に埋め、大きな石を置いて人目につかないようにしました。一方、「うしの」の死体は行き倒れの女として村のはずれに埋葬されました。

それから 203 年たった虚空蔵様の祭りのとき、番楽の奉納で「剣の舞(つるぎのまい)」を舞う 2 人の若者がいました。突然、1 人の舞手がもののけに取りつかれ、狂ったように踊り出しました。もののけを振り払おうとする若者を見て、不思議に思った庄屋は見物人を見渡しました。見物人の中に村で見たことのない青白く、冷たい光を放つ妖しい姿の美しい娘を発見しました。庄屋は「おのれ妖怪」と刀で切りかかりました。「チャリン」という刀の音と共に娘はパッと消え、舞手の若者は、十字架を埋めた大きな石の前で呆然と立ち尽くしてしまいました。

村人はこの不思議な出来事以来、この石を「お化け石」と呼ぶようになりました。また、チャリンという刃の音は石に当たった音で、石に十字の形に傷がついたことから、「十字石」とも呼ばれています。



お化け石は元々、「春木
～釜淵停車場間県道工事」
の際に山神社入口の右側、
釜淵一区公民館下の土手
に半分埋もれた状態で発
見された。

工事が行われる前の道路は幅が4、5mほどしかなく、乗用車がすれ違うのもやっとの状態であった。そこで、歩道を含めて幅9mの道路への改修を進めるため、お化け石が埋もれている土手も削り取られることになった。

その際に道路を挟んだ反対側に移設して、台座の上に設置されたのが現在確認できるお化け石の姿である。

移設が決まった際、伝説に登場する十字架が本当にこの石の下に埋められているのかどうか注目された。「全くの伝説。根拠が無い。」と断言する人や、「ひょっとすると素晴らしいものが出てくるかもしれない。」と期待をかける人もおり、地域の人々の関心は日増しに高まっていると当時の新聞には取り上げられている。



お化け石が取り上げられた当時の新聞記事と
公民館下の土手に埋もれたお化け石の写真



< 釜淵山神社 >



○釜淵山神社の概要

神 社 名…釜淵山神社(合祀：虚空蔵神社・保呂羽権現神社)
祭 神…大山祇命(おおやまつみのみこと)・虚空蔵菩薩(こくうぞうぼさつ)
例 大 祭…9 月 13 日
社 殿…本堂 破風造トタン葺 1 間 4 面
拝 殿…入母屋造トタン葺 3 間×2 間(約 19.9 m²)
幣 殿…破風造トタン葺 1 間×1.5 間(約 4.6 m²)
境 内…約 508 坪(約 1,679 m²)

○釜淵山神社の由緒改革等

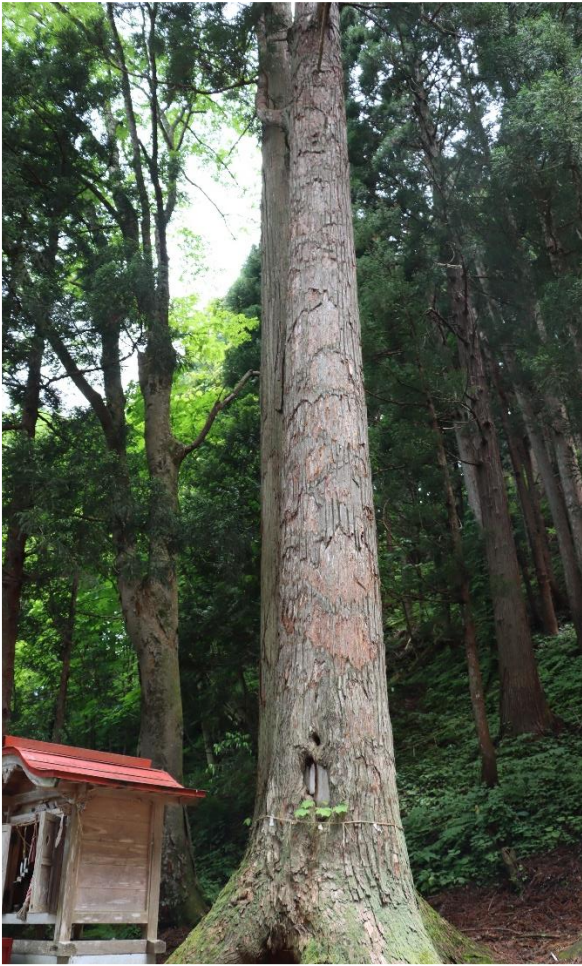
天和 2 年(1682 年)創立。

一説には明暦年間(1655 年～1658 年)の頃、当地開発時代より、旧家によって鎮祭されたのが始まると伝えられる。地区開発当時は、その生計を殊の外(ことのほか)天然森林の恩恵に浴した。当地区の山神社信仰は厚く、境内には木花開耶姫(このはなのさくやびめ)を祀った祠もある。

当神社に合祀されている虚空蔵菩薩信仰と共に、家内安全、身体堅固、五穀豊穰、知恵と幸福の神社として近郷から参拝者も多い。

東北地方の北半ばに転々と散在するに過ぎないと言われる番楽が、連綿と継承されていて、祭典には必ずこれが奉納され、御神輿の渡御、少年鼓笛隊の行進や催し物等、山車もきらびやかに練り歩いて祭典を盛り上げて賑わう。

「釜淵百年史」より



↑< 木花開耶姫を祀る祠 >

木花開耶姫は安産と子宝の神として信仰されている

←< 虚空蔵様の御神木 >

幹にある皮の剥げた跡は「龍の足跡」と言われている

↓< 9月13日のお祭りの様子 >

釜淵番楽獅子舞の奉納が行われる



○保呂羽権現(ほろはごんげん)

虚空蔵神社からさらに上った山頂にある「保呂羽権現神社」は元々、釜淵・栗谷沢の間「権現堂」にあったが、争いの末、現在地に奉斎されたと伝えられている。「風呂輪権現」との名札が掲げられているが「保呂羽」が訛った当て字と考えられる。

祭日の9月13日には釜淵番楽の獅子舞が奉納される。

「釜淵百年史」より一部抜粋

[illegible]

[illegible]

[illegible]

バス添乗・公用車名簿

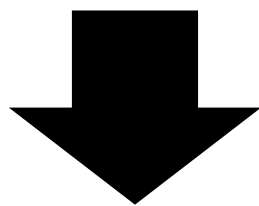
1号車	
運転手	庄司 吉一(サポート企業組合)
1	高宮 俊子
2	庄司 由美
3	高野 きん子
4	福富 美栄子
5	佐藤 誠子
6	倉田 昌弘
7	佐藤 保
8	中塚 深見
9	松田 洋子
10	高橋 睦美
11	高橋 喜恵子
12	高橋 洋輔
13	杉原 和泉
14	杉原 優子
15	山田 敏一
16	山田 美喜子
17	佐藤 将
18	大友 郁弥
19	池田 節子
20	大場 伸
添乗	矢口 しのぶ
添乗	阿部 駿之介

2号車	
運転手	近藤 豊和(サポート企業組合)
21	柴田 直美
22	伊藤 正三
23	長谷部 ハル子
24	伊藤 和子
25	土屋 キミ子
26	佐藤 成子
27	佐藤 栄子
28	小松 健弥
29	荒川 弘子
30	矢作 三千世
31	河津 光
32	佐藤 方男
33	笹原 みな子
34	三浦 正子
35	佐藤 秀子
36	渡部 梨沙
37	佐藤 裕子
38	劔持 順子
39	梁瀬 美恵子
40	栗田 明
41	栗田 弘美
添乗	大友 寿美代
添乗	高橋 剛文 資料館長

ステップワゴン(随行車・緊急車両)	
	門脇 昭 教育長
	大木 聡 副町長
	佐藤 洋子 課長
	長倉 守 指導主幹
運転手	庄司 潤一郎 係長

サクシード(コーヒー係・先行車)	
	佐藤 正美 主幹
	佐藤 哲也 業務員

第 13 回真室川スタディツアー アンケート回答フォーム



今後の事業に活かすため、アンケートの回答にご協力ください。

アンケートは上の「QR コード」または「アンケート回答用紙」

からご回答ください



町公式 HP にて「大人の社会科副読本」「過去のツアーレポート」公開中！

こちらの QR コードからご覧いただけます





真室川町教育委員会